

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・ 基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S200001	田和真紀子 (担当飯田和明)	日本語学概説Ⅰ	日本語の特徴について言語学の観点から講義する。「日本語」の音声・語彙・文法・表記について、テキストを用いて、専門用語の解説ならびに言語現象のとらえ方を講義する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」の基礎的な知識と考え方を習得する。	・日本語学の基礎的な知識と考え方を習得する。 ・日本語学で用いられる専門用語を用いて、日本語表現に見られる言語現象を説明することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S200508	田和真紀子 (担当飯田和明)	日本語学概説Ⅱ	日本語の特徴について言語学の観点から講義する。「日本語」の音声・語彙・文法・表記について、テキストを用いて、専門用語の解説ならびに言語現象のとらえ方を講義する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」の基礎的な知識と考え方を習得する。	・日本語学の基礎的な知識と考え方を習得する。 ・日本語学で用いられる専門用語を用いて、日本語表現に見られる言語現象を説明することができる。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S201504	鈴木啓子	日本文学概説A	近代日本の優れた掌編小説をとりあげ、その解釈と観賞を通して、文学とは何か、文学を読むとはいかなる営みか、日本の近代文学はどのような特色を持ち、どのような命題に向かっていたかを、具体例に則して概説する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本文学」、特に「近代文学」に関する入門編として、近代文学を読むに必要知識・態度・能力を育成する。	・文学的テキスト(小説・詩歌等)の読み方・味わい方の基本姿勢と基礎的方法を具体例に則して修得する。 ・文学テキストに対する各自の「解釈」を言語化して表現できるようになる。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S201008	守安敏久	日本文学概説B	主として森鷗外の作品を題材として、文学的な知識を深めるとともに、考察力を養成する。鷗外の一連の歴史小説を読み進むとともに、その前後に書かれた現代小説をも考察する。さらに同時代の夏目漱石や自然主義文学の動向を見据えながら、明治末から大正初期にかけての文学史を俯瞰する。	教育学部において、中学一種免許・中学二種免許・高校一種免許「国語」を取得する場合は、必修科目として履修することになる。日本文学を通して、教員として必要な文学的知識と思考を学ぶ。	・文学作品を読み、文学的な知識を深めるとともに、考察力を養成する。 ・具体的な文学作品を通して、教員として必要な読解力と思考力を学ぶ。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S202004	荒井礼 (担当飯田和明)	漢文学概説	中国の散文・韻文がどのような歴史的背景において登場したのかを概説する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための必修科目であり、中高の国語教員に必要な、中国文学に関する基礎的知識を伝授する。	・漢文学の魅力と意義を理解する。 ・中国の散文・韻文がどのように成立展開したかを理解する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S203000	中島 望	書写	国語科「書写」の目標、内容を理解し、それに沿った指導法、硬筆・毛筆の基礎的な技法の習得を目指す半期講座。学生自らが授業を行う模擬授業などを通して、教員に求められる実践力を身につけていく。	国語教育の「ことばの学習」に対し、書写は「文字(言語)の学習」である。国語に限らず、教員として備えておきたい「正しい文字」の知識、実践的な技能を修得し、児童・生徒の心身の発達の特性等に応じた指導法について学ぶ。	・国語科「書写」の教材研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・国語科「書写」の授業展開の仕組みや指導法について理解する。 ・児童、生徒の文字への興味や関心、手書き文字の実態を理解する。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基礎教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S203508	池上啓 (担当飯田和明)	日本語学演習Ⅰ	日本語の語源の分析を行う。具体的には、日本語の語源を受講生全員で調べ、それを通じて言語の分析方法を身につけることを目標とする。最近では語源ブームで新しい語源辞典がいくつも出版されている。しかし、それらの辞典を読んでも、実は語源の解説になっていないという場合が意外に多い。今年度はそのような語、つまり既存の語源辞典の説明では納得できないゾ！、という語を選び出し、それについて順次発表者が調査し、その結果を全員で検討していく。比較的新しい語を対象とするので、資料は図書館に備えてあるもので足りる。検討(批評)の対象とする語源辞典は『答えられそうで答えられない語源』(出口宗和 二見書房)を使う。テキストは教員がコピーを用意する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」、特に古典に関する基礎的演習科目としての意義を持つ。中学・高校の国語教員に必要な古典文学作品の文法・語彙等の基礎知識を習得する。	・発表資料を作成することで、日本語学的手法に則った古典作品の語彙・文法等の調査方法を習得する。 ・日本語学における問題点の発見と考察の方法を習得する。 ・日本語学に限定せず、言語学的な思考方法、処理方法を習得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S204008	池上啓 (担当飯田和明)	日本語学演習Ⅱ	「日本語学演習Ⅰ」に続いて、日本語の語源の分析を行う。具体的には、日本語の語源を受講生全員で調べ、それを通じて言語の分析方法を身につけることを目標とする。最近では語源ブームで新しい語源辞典がいくつも出版されている。しかし、それらの辞典を読んでも、実は語源の解説になっていないという場合が意外に多い。今年度はそのような語、つまり既存の語源辞典の説明では納得できないゾ！、という語を選び出し、それについて順次発表者が調査し、その結果を全員で検討していく。比較的新しい語を対象とするので、資料は図書館に備えてあるもので足りる。検討(批評)の対象とする語源辞典は『答えられそうで答えられない語源』(出口宗和 二見書房)を使う。テキストは教員がコピーを用意する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本語学」、特に古典に関する基礎的演習科目としての意義を持つ。中学・高校の国語教員に必要な古典文学作品の文法・語彙等の基礎知識を習得する。	・発表資料を作成することで、日本語学的手法に則った古典作品の語彙・文法等の調査方法を習得する。 ・日本語学における問題点の発見と考察の方法を習得する。 ・日本語学に限定せず、言語学的な思考方法、処理方法を習得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S204511	鈴木啓子	日本文学演習Ⅰ	近代日本の文学作品の解釈・鑑賞を演習形式で行う。今年度は明治・大正期に書かれた短編小説を題材に取りあげる。作品を受講者全員に割り当て、口頭発表を課す。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本文学」、特に「近代文学」に関する基礎的演習科目として、近代文学を研究する際に必要な知識と技能を育成する。	・文学テキストの基本的な研究方法を具体例に則して体験的に修得する。 ・作品研究をテーマとして発表資料を作成し、調査・考察をわかりやすく説明できるようになる。 ・文学テキストの「解釈」をめぐる、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・ 基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づき行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S204503	守安敏久	日本文学演習Ⅰ	二葉亭四迷、森鷗外、樋口一葉、泉鏡花、島崎藤村、夏目漱石、谷崎潤一郎、有島武郎、芥川龍之介、横光利一、葉山嘉樹などの短編小説を、受講者に割り当て、担当発表してもら	中学校・高等学校の免許教科「国語」を取得するための選択必修科目である。日本文学を通して、教員として必要な知識と思考を身につける。	・文学作品を題材として、創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。 ・テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。 ・教員として必要な文学的知識と思考を身につけることを目指す。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S205011	鈴木啓子	日本文学演習Ⅱ	近代日本の文学作品の解釈・鑑賞を演習形式で行う。今年度は明治・大正期に書かれた短編小説を題材に取りあげる。作品を受講者全員に割り当て、口頭発表を課す。Ⅱ（後期）においては、各自の考察分析の論文を指導する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、国語教育専攻の1専門分野である「日本文学」、特に「近代文学」に関する基礎的演習科目として、近代文学を研究する際に必要な知識と技能を育成する。	・文学テキストの基本的な研究方法を具体例に則して体験的に修得する。 ・作品研究をテーマとして発表資料を作成し、調査・考察をわかりやすく説明できるようになる。 ・文学テキストの「解釈」をめぐる、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 ・文学テキストに対する各自の「解釈」を論述できるようになる。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S205003	守安敏久	日本文学演習Ⅱ	森鷗外の短編小説を、受講者に割り当て、担当発表してもら。作品についての高度で創意ある考察と口頭発表が求められる。	中学校・高等学校の免許教科「国語」を取得するための選択必修科目である。日本文学を通して、教員として必要な知識と思考を身につける。	・文学作品を題材として、創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。 ・テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。 ・教員として必要な文学的知識と思考を身につけることを目指す。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S206001	小林とし子(担当飯田和明)	古典講読演習(古文)	源氏物語の夕顔巻を取り上げ、読解・解釈・鑑賞を行う。本授業では、「源氏物語大成」の本文を演習形式で読み進める。伝本ごとの異同も考慮に入れながら丁寧な読解と文法力の獲得を目指し、物語の時代背景も合わせて考えていく。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、上代から近世までの古典文学に対する博く高い関心を育むとともに、日本文学を解釈・鑑賞・評価するための学術的な態度と方法を授ける。	・上代から近世に成立した様々な文学作品に触れ、その特色や魅力を深く理解する。 ・古典文学を研究するための方法や観点を理解し、自分なりの問題意識を持てるようになる。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S205501	荒井礼(担当飯田和明)	古典講読演習(漢文)	句読点のない中国古典(白文)の読解力をつけると同時に、本文校訂の方法を習得する。	必修科目であり、句読点のない中国古典(白文)	・漢文学の魅力と意義を理解する。 ・句読点のない中国古典(白文)を読解するための基礎的知識と方法を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S205502	荒井礼(担当飯田和明)	古典講読演習(漢文)	句読点のない中国古典(白文)の読解力をつけると同時に、本文校訂の方法を習得する。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、句読点のない中国古典(白文)の読解力を育成する。高校1種免許を取得する者は必修。	・漢文学の魅力と意義を理解する。 ・句読点のない中国古典(白文)を読解するための基礎的知識と方法を修得する。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基盤教育 教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S206514	飯田和明	中等国語科教育法Ⅰ	中学校、高等学校の「国語」について、主に文学的文章教材、説明的文章教材の教材研究方法、および指導法について講義する。	中学校・高等学校免許(国語)取得のための必須科目。中学校・高等学校教科「国語」に係る専門科目(国文学・国語学等)で取得した知識を援用し、国語を教えるための知識・技能(教材研究法・指導法)を修得する。対象職種は違うが、「初等国語科教育法」で修得した知識・技能をさらに発展させるように組み立てられている。学校教育教員養成課程の「学習・教育目標」達成のためには、特に(A)、(C)に強く関係する。	1) 中学校高等学校国語教材(文学的文章教材・説明的文章教材)の教材研究方法について、基礎的な知識・技能を修得する。2) 中学校・高等学校教科「国語」を教えるための、基礎的な指導法を修得する。3) 上記教材研究法・指導法について、その理論的基盤の基礎を理解する。	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	0.1
S206522	飯田和明	中等国語科教育法Ⅱ	中学校、高等学校の「国語」について、主に「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する教材研究方法、および指導法について講義する。	「中等国語科教育法Ⅰ」に続くものである。中学校・高等学校免許(国語)取得のための必須化もむ。中学校・高等学校教科「国語」に係る専門科目(国文学・国語学等)で取得した知識を援用し、国語を教えるための知識・技能(教材研究法・指導法)を修得する。対象職種は違うが、「初等国語科教育法」で修得した知識・技能をさらに発展させるように組み立てられている。学校教育教員養成課程の「学習・教育目標」達成のためには、特に(A)、(C)に強く関係する。	1) 中学校高等学校国語教材(「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」)の教材研究方法について、基礎的な知識・技能を修得する。2) 中学校・高等学校教科「国語」を教えるための、基礎的な指導法を修得する。3) 上記教材研究法・指導法について、その理論的基盤の基礎を理解する。	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.3	0.1	0.1
S207006	森田香緒里	中等国語科教育法Ⅲ	中学校・高等学校「国語」についての、指導法及び教材研究法について講義する。教育実習を視野に入れ、指導案の作成や授業展開の構想等、特に実践的な課題を設定し、授業場面のビデオ等の資料を元に討議を行う。	中学校教員免許一種(国語)取得に必須の科目。「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」において、中学校・高等学校「国語」のための教材研究法の基礎を修得した上で、ここではさらに生徒の言語能力の実態に即した指導法について学ぶ。	・指導法研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・授業場面における、生徒の多様な言語能力の実態を理解する。 ・学習活動の設定や指導案の作成等、授業実践に関する基礎技能を修得する。	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1
S207502	森田香緒里	中等国語科教育法Ⅳ	中学校・高等学校「国語」についての、指導法及び教材研究法について講義する。古典教材を中心とした教材研究を行うとともに、教材開発から(模擬)授業に至るまでの指導法研究の過程を実践的に学ぶ。	中学校教員免許一種(国語)取得に必須の科目。「中等国語科教育法Ⅰ～Ⅲ」で修得した教材研究法及び指導法を、教材作成や模擬授業等の活動を通して実践的・発展的に学ぶ。	・教材研究法の基礎的な知識を生かし、古典教材の教材分析法を修得する。 ・生徒の発達段階や授業における反応を具体的に想定して、教材や授業展開を工夫することができる。 ・模擬授業等の集団での活動を通して、主体的・協力的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1
S209009	非常勤(担当飯田和明)	日本語史	原則として隔年開講。約1500年および日本語の史的変遷を、語彙・文法・音声・表記それぞれの面から取り上げ、講義する。	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、中学校・高等学校の国語教員に必要な古典語の知識と日本語の歴史に関する知識を習得する。	・日本語の歴史に関する基礎知識を習得する。 ・時代ごとの日本語の特徴を知る。 ・現代日本語の成立に至る史的変遷を知る。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基礎教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S210007	非常勤 (担当飯田和明)	日本語学講読	原則として隔年開講。日本語学分野で最新の研究書を、他説の紹介や研究背景の説明などの講義を中心に読み進めていく。	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、研究内容が最も注目されている最新の研究書を読み解くことによって、日本語学の研究方法に関する知識を習得する。小学校から高校の国語における「言語項目」の基礎知識となる日本語の考え方と分析方法を習得することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学の最新研究の内容を理解できるようになる。 レポート作成の際に日本語学の先行研究を引用できるようになる。 日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。 日本語学的な分析の観点を身につける。 	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
	非常勤 (担当飯田和明)	日本語学特講	原則として隔年開講。日本語学分野の最新の研究について、他説の紹介や研究背景の説明などを踏まえながら講義する。	国語教育専攻の選択専門科目の一つとして、研究内容が最も注目されている最新の研究書を読み解くことによって、日本語学の研究方法に関する知識を習得する。小学校から高校の国語における「言語項目」の基礎知識となる日本語の考え方と分析方法を習得することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学の最新研究の内容を理解できるようになる。 レポート作成の際に日本語学の先行研究を引用できるようになる。 日本語学における問題点の設定と仮説の立て方を理解する。 日本語学的な分析の観点を身につける。 	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
S211003	森田香緒里	国語表現法 I	論理的文章を作成するために必要な作文技術を、講義及び実技を通して達成する。具体的には、西洋で1500年にわたって行われた「プロギュムナスマタ」と呼ばれる作文訓練方法を現代風にアレンジして用いる。特に1では、要約、引用、敷衍、例証等の技術を扱う。授業では、作文課題についての講義を行った上で、実際に文章を書かせ、相互批評を行う。	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目。作文を書いて相互批評を行う活動を通じて、自らの書く力の向上を図り、国語教員に必要な作文技術を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 論理的文章を書くために必要な作文技術について理解する。 西洋の伝統的な作文指導に関する理解を通して、日本の作文指導の現代的課題について考察する。 多声的・複声的な文章や、譬え・実例等をともなった説得的な文章が書けるようになる。 	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基礎教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S211003	森田香緒里	国語表現法Ⅱ	国語教員として必要な作文技術を達成する。具体的には、西洋で1500年(2世紀~17世紀)にわたって行われた、プロギュムナスマタと呼ばれる訓練方法を現代風にアレンジして行う。プロギュムナスマタは最大14項目で構成されるが、この授業では、その中から、5反論、6立論、8賞賛、9非難、10比較を取り立てて扱う。授業では、それぞれの項目について、テキストによって簡単に概説し、その後、いくつかの材料・ヒントを与えて実際に文章を書かせる。	「国語表現法Ⅰ」に続くものである。教科「国語」を教える者として、そのプロフェッショナルと呼ばれるための最低限の言語(文章)表現力を修得する。	・1情報の発信源に対する不信、2話の概要、3不明確な点から、4ありそうにない点から、5不可能な点から、6矛盾する点から、7不合理な点から、の各項目を組み込んで、反論の文章を書くことができる。 ・1情報の発信源に対する信頼、2話の概要、3明確な点から、4ありそうな点から、5可能な点から、6一貫した点から、7合理的な点から、の各項目を組み込んで、立論の文章を書くことができる。 ・比較の技法を取り入れた賞賛・非難の文章を書くことができる。 ・国語教員として、文章を構成する上記の技巧について、他者(生徒)に説明することができる。	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1
S213553	野本東生(担当 鈴木啓子)	日本文学史(古典)	上代から近世まで、和歌を中心にして、どのような作品が誕生し、それがどのように享受されてきたのかをたどる。	国語教育専攻の選専攻専門科目の一つとして、中高の国語教員に必要な日本古典文学史の基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。	・古典文学史に関する基礎的知識を修得する。 ・和歌がどのように誕生し、享受されたかを通史的に把握できるようにする。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S213553	鈴木啓子	日本文学史(近代)	日本近代文学の成立と展開を、その中心ジャンルとなった「小説」を中心に、明治10年代から昭和初年代にかけて通史的に概説する。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、中高の国語教員に必要な日本近代文学の通史的な基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。	・近代日本文学史がどのように成立展開し、どのような特色を持つかを通史的に理解する。 ・時代(政治・社会・文化)の変化と関連づけながら、文学の変遷を高所から多角的にとらえる見地を修得する。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S215114	守安敏久	日本文学講読A	原則として隔年開講。主として近代の文学作品をとりあげ、講義講読を行う。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、文学作品を教材に、作品を読解・解釈・鑑賞するための学術的な知識・態度・方法を授ける。教員として必要な知識と思考を身につける。	・様々な日本文学に触れ、その特色や魅力を深く理解する。 ・日本文学を読解・解釈・鑑賞するための知識・態度・方法を修得する。教員として必要な学術的な知識と思考を身につけることを目指す。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S215122	鈴木啓子	日本文学講読B	原則として隔年開講。年度毎に時代・文学者・作品・テーマを設定し、上代から近代(明治期)までの古典的名作をとりあげ、講義講読を行う。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、上代から近代までの任意の作品を教材に、文語体で書かれた日本文学を読解・解釈・鑑賞するための学術的な知識・態度・方法を授ける。	・上代から近代までの様々な日本文学に触れ、伝統的文学の特色や魅力を深く理解する。 ・文語体や古典的手法を用いて作られた日本文学を読解・解釈・鑑賞するための知識・態度・方法を修得する。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基盤教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	鈴木啓子	日本文学特講A	原則として隔年開講。年度毎に特定のテーマを設定し、明治から現代までの作家・作品をとりあげ、近代文学研究の先進的な取り組みをわかりやすく講義する。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近現代の様々な文学に対する博く高い関心を育むとともに、日本文学を解釈・鑑賞・評価するための学術的な知識・態度・方法を授ける。	・近現代に登場した様々な文学作品に触れ、その特色や魅力を深く理解する。 ・近現代文学を研究するための方法や観点を理解し、自分なりの問題意識を持てるようになる。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
国語教育	非常勤(担当飯田和明)	日本文学特講B	原則として隔年開講。年度毎に特定のテーマを設定し、上代から近世までの古典文学をとりあげ、古典文学研究の先進的な取り組みをわかりやすく講義する。年度によって講義内容が異なる。	国語教育専攻の専門科目として、上代から近世までの古典文学に対する博く高い関心を育むとともに、日本文学を解釈・鑑賞・評価するための学術的な知識・態度・方法を授ける。	・上代から近世に成立した様々な文学作品に触れ、その特色や魅力を深く理解する。 ・古典文学を研究するための方法や観点を理解し、自分なりの問題意識を持てるようになる。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S220002	中島 望	書道史	中国の書法史から、現代日本の書字教育、藝術教育に至るまでの歴史を振り返る半期講座。日本の書道の歴史は漢字の渡来から始まり、常に中国や朝鮮の影響下に展開してきたが、その公的・私的・古典性、現代的・美術性・工芸性といったさまざまな性格を視照する。	文字はすべての文化の基礎であり、時代性を反映しながら、どのように変遷したかを知ること、史学の基礎ともいえる。さまざまな性格をもつ文字と書だけに、国、時代ごとに異なる歴史や鑑賞法についても考察する。	・歴史上、文字が果たしてきた役割と意義に関心をもつ。 ・文化史として、文学や美術、工芸の歴史との関係を理解する。 ・文字と書の変遷について、書体、書風を中心に鑑賞(臨書)する力を深める。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S221010	飯田和明	国語科教育特講	国語教育に関する論文を講読することを通して、言葉の教育における様々な課題を認識し、各分野にわたる研究的な視点を獲得する。	「国語研究セミナーC I」を受講して得た知識・技術を前提とし、国語教育分野で卒業論文を書くための準備科目とする。学校教育教員養成課程の「学修・教育目標」達成のためには、特に(A)、(B)、(C)に強く関係する。	・各論文における主要となる論点を捉え、その背景にある国語教育の課題を知る。 ・各自の卒業論文作成に向けて、必要な基礎情報を得ると共に、研究を進めていく手法を学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1
S222005	非常勤(担当飯田和明)	国語研究セミナーA I	4年次の卒業論文の執筆を念頭におきながら、中世に成立した古典作品の影印本を演習形式で読み進めていく。受講者は、割り振られた担当範囲内における日本語学的な問題点を掘り下げ、発表する。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、日本語学的な問題の発見方法および調査・研究方法を学ばせ、4年次に卒業論文を日本語学の分野で執筆するために必要な能力を養成する。中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。	・日本語学的な視点に基づいて問題点を見つけられるようになる。 ・『日本国語大辞典第2版』や『日本語文法辞典』等の関係辞典類および古典作品の語彙索引等、国語学で使用する辞典類の使用方法を習得する。 ・発表者の提示した問題点に対し、さらなる問題点を指摘し、議論できるようになる。 ・自ら立てた仮説に対し、それを証明する論証能力が身に付く。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基礎教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S222005	啓動 (担当飯田和)	国語研究セミナーA II	4年次の卒業論文の執筆を念頭におきながら、中世に成立した古典作品の影印本を演習形式で読み進めていく。受講者は、割り振られた担当範囲内における日本語学上の問題点を掘り下げ、発表する。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、日本語学上の問題の発見方法および調査・研究方法を学ばせ、4年次に卒業論文を日本語学の分野で執筆するために必要な能力を養成する。中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学的な視点に基づいて問題点を見つけられるようになる。 『日本国語大辞典第2版』や『日本語文法辞典』等の関係辞典類および古典作品の語彙索引等、国語学で使用する辞典類の使用方法を習得する。 発表者の提示した問題点に対し、さらなる問題点を指摘し、議論できるようになる。 自ら立てた仮説に対し、それを証明する論証能力が身に付く。 	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0
	鈴木啓子	国語研究セミナーB I	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品を採りあげて、作品研究をセミナー形式で行う。開講年度にテーマを設定して作品を選択する。受講者は1人1作家の1作品を担当して発表を行う。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。中学・高等学校の文学的教材の研究に必要な能力の育成にもなる。	<ul style="list-style-type: none"> 文学作品の書誌的事項・作品成立の背景・研究史を調査し、整理できるようになる。 文学作品のディテールを注釈的に調査し、作品分析に繋げられるようになる。 文学テキストの「解釈」をめぐって、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 問題を設定し、自らの仮説を立て、それを論証する論理的考察力と文章力を修得する。 	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.3	0.1
	守安敏久	国語研究セミナーB I	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品 (主として昭和文学) をとりあげ、作品研究をセミナー形式で行う。作品を受講者に割り当て、担当発表してもらう。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学 (主として昭和文学) の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。教員として必要な高度な文学的知識と思考を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 文学作品を題材として、高度で創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。 テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。さらにその成果を卒業論文へと接続させる。 教員として必要な、高度な文学的知識と思考を身につけることを目指す。 	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
	鈴木啓子	国語研究セミナーB II	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品を採りあげて、作品研究をセミナー形式で行う。開講年度毎にテーマを設定し、受講者は1人1作家の1作品を担当して発表を行う。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。中学・高等学校の文学的教材の研究に必要な能力の育成にもなる。	<ul style="list-style-type: none"> 文学作品の書誌的事項・作品成立の背景・研究史を調査し、整理できるようになる。 文学作品のディテールを注釈的に調査し、作品分析に繋げられるようになる。 文学テキストの「解釈」をめぐって、論点を設定し、集団で議論する能力と態度を修得する。 問題を設定し、自らの仮説を立て、それを論証する論理的考察力と文章力を修得する。 	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.3	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・基礎教育	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, 0.3, 0.4, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	守安敏久	国語研究セミナーB II	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品（主として昭和文学）をとりあげ、作品研究をセミナー形式で行う。作品を受講者に割り当て、担当発表してもらう。	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学（主として昭和文学）の様々な研究方法を幅広く体験的に学ばせ、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす。教員として必要な高度な文学的知識と思考を学ぶ。	・文学作品を題材として、高度で創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。 ・テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。さらにその成果を卒業論文へと接続させる。 ・教員として必要な、高度な文学的な知識と思考を身につけることを目指す。	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.0
S226116	森田香緒里	国語研究セミナーC I	国語科授業の分析方法について、講義と実際の分析を通して基礎的な知識と技能を学ぶ。授業分析に関する基礎的文献を講読し、その後、授業の録画資料を用いて、授業記録の作成及び分析を行う。	国語教育専攻の選択専門科目。授業という言葉コミュニケーション現象に関して、文献講読と分析を行うことによって、国語科教育領域における研究方法の基礎を修得する。同時に、国語科教員に必要な「実践的思考」を養う。国語教育分野で卒業論文を書くことを希望する者の必須科目である。	・国語科授業の特質について理解する。 ・授業分析に関する基礎的知識・技能を修得する。 ・集団での議論を通じて、国語科授業に内在する様々なコミュニケーション現象を分析することができる。	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1
S226129	中島 望	国語研究セミナーC I	書写・書道教育分野の卒業論文、または書道卒業制作に直結する半期講座。履修内容は事前に決めた分野（日本の書道教育を含む）・テーマ等の方法論や思考法、また技法的演習を行う。	国語教育専攻の選択専門科目であるが、芸術科書道教育、書道制作を含める。また、伝統的な文字指導（識字教育）とは別に発展した書道（思想）教育も扱う。各領域における研究方法の基礎を修得し、実践（指導）力を身につける。	・各自でテーマを設定し、段階的に目標を計画的に定める力を養う。 ・課題解決を進めるに当たっての計画や実験・解析方法などの検討が担当教員指導下で自主的に実施できる。 ・深い教養・豊かな専門性・高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
S226123	飯田和明	国語研究セミナーC I	国語教育に関する実践の検討や論文の講読を通して、言葉の教育における様々な課題を認識し、各分野にわたる研究的な視点を獲得する。	「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」を受講して得た知識・技術を前提とし、教材研究や指導法研究に関する先行文献を読解することで、国語教育分野で卒業論文を書くための準備科目とする。学校教育教員養成課程の「学修・教育目標」達成のためには、特に(A)、(B)、(C)に強く関係する。	・国語教育における実践の内容や背景、論文における主要となる論点を捉え、国語教育に存する課題を知る。・国語教育に関する各自の研究的視点を持ち、基礎情報を得ると共に、研究に入っていくための手法を学ぶ。	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (国語教育専攻)

学習・ 基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を習得し、教師としての使命感をもって児童生徒に接することができる。 (B) 子ども理解や学習集団形成のために必要な知識を習得し、発達段階に応じた教育方法の工夫と個性に応じた指導ができる。 (C) 教科・教育課程に関する知識・技能をもち、児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発と学習者主体の授業が実践できる。 (D) 学校教育における様々な課題について関心を持つとともに、自己の課題を認識し探究心を持ってその解決に取り組むことができる。 (E) 他者を尊重し、協力して課題解決に取り組むなど、共に支え合い、高め合える人間関係を築くことができる。
	(β) スポーツ	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができてい		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S226116	飯田和明	国語研究セミナーCⅡ	Informal Logicのnegative approachとして、虚偽論を応用した論理的思考力の育成方法について演習を行う。論理的に正しい思考方法を、論理的に正しくない(虚偽の)思考方法を検討することで、裏側から身につけていこうとする試みである。受講生にはあまり馴染みのない分野だと思うので、演習ではあるが、講義的な部分を多くする。基本的な虚偽形式について一応の理解が得られたら、受講生がそれぞれの虚偽形式について教材を作成し、ミニ授業を行う。「Ⅱ」では、「主張のすり替え」・「人に訴える議論」・「性急な一般化」等の虚偽を扱う。	「国語研究セミナーCⅠ」に続くものである。「国語表現Ⅰ・Ⅱ」・「中等国語科教育Ⅰ・Ⅱ」受講で得た知識・技術を前提とし、国語教育の一領域である思考指導について、生徒の発達段階に応じた、教材作成法・指導法の基本的知識・技術を修得する。国語教育分野で卒業論文を書くための準備科目ともなる。	<ul style="list-style-type: none"> 主張のすり替え、人に訴える議論、性急な一般化等の虚偽について理解する。 主張のすり替え、人に訴える議論、性急な一般化等の虚偽を生徒に理解させるための、ワークシート等の自主教材を作ることができる。 主張のすり替え、人に訴える議論、性急な一般化等の虚偽を生徒に理解させるための、指導方法を工夫することができる。 	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
S226124	森田香緒里	国語研究セミナーCⅡ	作文教材の開発及び指導法について、歴史的文献や海外の事例等から多角的に調査・議論する。作文指導の様々な方法を理解するとともに、新しい作文教材の開発を行う。	国語教育専攻の選択専門科目。作文指導をテーマに、歴史的文献や海外の文献を扱うことによって、国語科教育領域における研究方法の基礎を修得する。同時に、国語科教員に必要な教材開発力を養う。国語教育分野で卒業論文を書くことを希望する者の必須科目である。「国語研究セミナーCⅠ」を履修していることが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的文献や海外の文献を調査・講読することができる。 作文指導に関する普遍的課題や現代的課題について、考察したり集団で議論したりすることができる。 教材開発の基礎について修得する。 	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1
S226130	中島 望	国語研究セミナーCⅡ	書写・書道教育分野の卒業論文、または書道卒業制作に直結する半期講座。Ⅰでの指導や助言を踏まえ、卒業研究のテーマを具体化し、方法論・思考法の習得・運用の訓練や基礎調査の遂行を図る。	国語教育専攻の選択専門科目であるが、芸術科書道教育、書道制作を含める。また、伝統的な文字指導(識字教育)とは別に発展した書道(思想)教育も扱う。卒業研究のテーマの具体化・明確化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識や理論に加え、卒業研究(論文・制作)に向け、各自が選択したそれぞれのテーマに基づき実証研究を行う。 書道制作による卒業研究は、これまでの制作活動を深化させ、テーマ性の向上を図る研究を進める。 	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1
	国語全教員	卒業論文・卒業制作	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文は、国語学・国文学・国語教育・書写教育・書道教育 から1分野を選択し、自己の研究テーマを設定し、文学作品や先行文献の収集・読解・分析、あるいは実地踏査やアンケート調査や模擬授業等の方法を用いて、課題の解明を模索し、そのプロセスを学術論文として論述する。10月上旬に中間発表を行い、1月末に提出し、2月末～3月初頭の卒業論文発表会で口頭発表を行う。 卒業制作は、書道藝術の今日的表現形式を参照し、臨書で培った技法を発展的に深め、卒業制作展を自ら企画し実施する。 	国語科の専攻専門科目の集大成として、3年次に履修した国語研究セミナーAⅠⅡ～CⅠⅡの中から、1分野を選択し、卒業論文・卒業制作を行う。卒業論文や卒業制作をおこなう分野に関しては、これに関する選択科目を履修していることが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> 1分野を選択して探究することで、国語科全般への学力を養うとともに、専門分野への深い理解と応用力を獲得する。 自らテーマを設定して、自立的・主体的に調査研究することにより、普遍的・今日的な課題への幅広い知識と専門的な判断力を修得する。 専門の1分野を深く本質的に理解することによって、児童・生徒の発達段階に応じた教材研究・教材開発に活かせる応用的学力を修得する。 学ぶことへの意志と情熱を持ち、自らの問題意識を様々な角度から具体的に検証し、その過程と結論(仮説)を学術的に論述し、わかりやすく説明できるようになる。 	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1